
Fate of chain

想夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fate of chain

【Nコード】

N6387I

【作者名】

想夢

【あらすじ】

隕石とともに墜ちてきた「ワーム」
それに対抗するための「ライダーシステム」
やがて力は力を呼びお互いに滅ぼし合っていく。
ワームだけが敵じゃない敵は「力」
3つの勢力が交わる東京で戦いが始まる。

序章（前書き）

仮面ライダーシリーズから色々な事引っ張ってきました。
よろしくお願ひします。

序章

また会おう！

そう言っつて俺たちは高校を卒業してそれぞれの道を歩き始めた。

そして6年後1つの隕石が空から降ってきた。

それこそが俺たちの運命を狂わせることになった。

これは逃れられない運命「F a t e」に立ち向かう

ライダーたちの戦いの記憶。

start up!!

9月11日

東京・防衛庁

「やはり他の国とのコンタクトは、取れないようですね」
広い会議室の中央に座る50過ぎの男性がため息混じりに呟く。
すると今度は若い男性が声を張り上げる

「もう一刻の猶予もないでしょ!!」

「資格者達を集めるべきでは??」

周りの人々もそれに賛同するように拍手をする。

「では、仕方がない。」

集めるとしましょう 私たちの希望を…」

彼らがいま問題にしている問題は、2週間前にインド洋に隕石が墜ちてから始まった。

（2週間前）

「ここで臨時ニュースをお伝えします。」

若めのニュースキャスター、

松元可乃がドラマを割いて険しい眼差しで伝える

「現地時間未明にインド洋に隕石が墜ちました詳しい被害は、周辺の国とは、連絡が取れず不明のままです。津波などの二次災害に十分な注意が必要との意見もでています」

この日を境にヨーロッパ地方や北、南アメリカとも取れず日本は実質孤立化した。

また裏を返せば、唯一の生き残り国家となった。

9月25日

旧八王子実践高校生活

ここに11名の若者達が訪れた、それぞれ、差出人不明の手紙をもつて

s t a r t u p ! ! (後 書 き)

登場人物は、これから乗せます！

Reunion(前書き)

登場人物

ライダー

八重樫達也

ライダーシャークを操る元陸上部部長。
温厚で争いが嫌い。

青木大輔

ライダーウルフを使用
元陸上部副部长。

すばすばした考え方をしており、八重樫と対立する事もしばしば

川崎友大

ライダースネークに搭乗、よく回りをみて八重樫、青木の仲裁に入ることが多い。

サポーター

松元可乃

つい最近までニュースキャスターをしていたがデルタに入るために
辞職した

高橋里奈

八重樫たちの1つした後輩、時々抜けた発言をするが信念を抱いて戦いに望む

R e u n i o n

「なんだ！

おまえ達も来てたのか」

10人の顔ぶれを見た

八重樫が言う。

「そんなことより何で俺達呼び出されてんの??」

その場に居た全員の疑問を新井が八重樫に問う。

「やめとけっ

てけがしってるわけないだろ」

川崎がすぐさま新井を制止する。

「知ってたら苦労しねーよな」

八重樫が返答して

あたりを見回すとそこには、自分のタメや

1つ下の後輩達が居ることに気がつく。

「みんな久しぶりだな！

理由は、ともかくあえてうれしいよ。」

と声を掛ける、元陸上部の部長として信頼を集めていたために未だに人望は、厚いようだ。

久々に合ったもの通し話をするあいだに予定時間になった。

すると1人のスーツを来た男が現れて言った

「みなさん12人お揃いですかね??」

人数を聞いた瞬間

全員があたりを見直し12いない事を確認するまでそう時間はかか

らなかった。

スーツの男が続けて言う「1人足りないようですが時間がないので始めましょう付いて来て下さい。」

そういうとスーツの男は、なにもない方向にあるき出しその後すぐに地下への入口にたどり着いた。

「さあどうぞ。」

男は更に進む。

「八重樫先輩

最後の1人って誰なんでしょう??」

1こ下の高橋が訪ねる

「誰だろうね。」

まあそのうち合流するんじゃないかな??」

と受け答えしている間におおきなホールのような場所にたどり着いた。

「ようこそ皆さん。」

突然大きなモニター越しに仮面を着けたものが挨拶してきた。

「皆さんが来るのを待っていました。」

会話を切るように青木大輔がいった。

「お前何者??」

何で俺達を呼んだんだよ??」

その場にいた全員の疑問をぶつけた。

「そうですね。」

では自己紹介を私は、帝「みかど」われわれ「デルタ」のトップです。」

「われわれ?」

川崎が鋭く反応した。

「まるで俺達もそのデルタってのの一員みたいに言うな。」

「当たり前です。」

これからあなた達には、ワームと呼ばれる化け物と戦って貰うので
すから。」

そのとき空気が一瞬凍りついたのを皆感じた

T r a n s f o r m a t i o n

静まり返ったその空気を切ったのは、帝だった。「まあ立ち話もな
んですからどうぞ奥へ。」

だが古山がそれに反発する。

「俺らがなんで戦わないといけないんですか??

帰らせて貰います。」

するとすぐ後ろから声が響く

「やめとけ!

死ぬぞ、今ここで帝に従わないとおまえ等みんな……」

声の方向をみて

全員の表情が氷ついた。

「翼先輩!!!」

彼は佐藤翼彼ら八重樫の前の部長で卒業と同時に消息が判らなくな
っていた。

「それわ」

その瞬間緊急時に反応するブザーが鳴り響く

「さあ皆さん始まりますよ

生き残りを賭けた戦争が。」

帝は、仮面の下で笑ってるように言う。

すると翼が言う

「てけ、大輔、ザイルはこっち来て、あとはそのまま奥に入って」

「従うしかないか」

八重樫は呟く

3人は、案内されるままに進むと

ライダーツールである

シャークブレス、ウルフレッグ、スネークグリップを渡される。

「これがお前達の力だ。」

無理に使えとわいわない。」

その言葉に3人は目を見開いた、

続けて翼が言う

「だが外の風景を見てから決める。」

「はい」

3人はうなずきハッチを開き外へでる。

すると見た事のない昆虫のような化け物3体が逃げる人達をおそっている。

「こんな やるしかないじゃねえかよ!!!」

大輔は叫び声をあげウルフレッグを太ももにセットし走り出す。

2人もそれぞれ2方向に走る。

するとどこからか

サメ、狼、ヘビの形をしたマシンが3人の手にのった。

そして

「変身!!!」

3人は、戦いに身を投げ入れていった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6387i/>

Fate of chain

2010年10月10日11時46分発行